

### 弘大自然環境研究センター

弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター(センター長・中村剛之教授)は27日、昨年6月に鯉ヶ沢町黒森地区の「白神の森遊山道」で初開催した市民参加型の生物多様性集中調査イベント「白神バイオブリッツ」の成果報告



会を弘前市総合学習センターで開いた。親子や専門家115人が参加して24時間でどれだけの生物を調べられるかに挑戦した結果、1006種の動植物を確認したことを報告。センターの大きな取り組みとして定着させたい考えで、第2回は今年6月に西目屋村で開く予定だ。

(石田紅子)

## 昨年初開催「白神バイオブリッツ」の成果報告会

# 24時間で動植物1006種



白神バイオブリッツに協力した団体向けに開かれた報告会

バイオブリッツは、同セ 市民と専門家が一緒に活動ンターが2023年度の白 法を見たり学んだりできる 周年を記念して、通年で取 点特徴で、自然や動植物 り組んでいる白神山地の生 に精通した若手育成や人材 物相総合調査の一環、一般 発掘も目的としている。

## 6月 西目屋で第2回開催

### 日本初記録2種、北限のコケ確認も

初開催となった昨年6月 植物243種、コケ植物29 24、25日は県内外から一般 種、鳥類31種など10項目1 市民56人、スタッフ59人が 006種が確認された。日 参加。見つけた動植物を同 本初記録としてハエヤドリ 定し整理した結果、維管束 バチとアリツカムシの2種

が参加した研究者によって 論文化された。このほか、 津軽植物の会はイベント会 期を含む10日間調査を行 い、コケ植物のウニバヨウ ショウゴケを本県で初記録 し、分布の北限であることを 確認した。

報告会にはイベントの運 営や調査に協力した団体な どから約20人が出席した。 第2回白神バイオブリッツ に向け検討会も行われ、初 回の反省を踏まえて改善点 などについて意見を交わし た。第2回は6月15、16日 に西目屋村にある同大白神 自然観察園で開催予定。 中村教授は「初めてのバ イオブリッツは参加者に好 評だった。白神の自然を残 すためにも、動植物に詳し い人の発掘と育成が重要。 イベントを観光活用できな いかも検討していきたい」と話した。

この画像は、当該ページに限って”陸奥新報”の記事利用を許諾したものです。転載ならびにページへのリンクは固くお断りします。